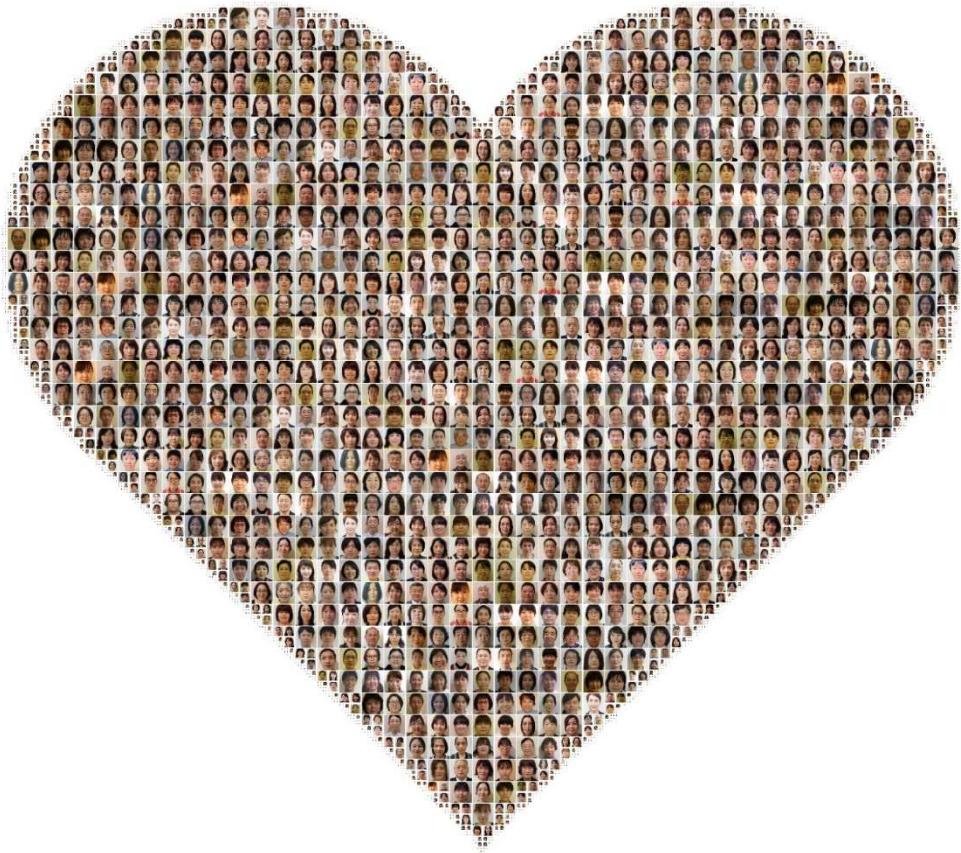




社会福祉法人さんよう

10th
Anniversary



これまでに「感謝」、これからも「とも」に

ともに歩む、ともに生きる

社会福祉法人さんようの原点は、夫の辰川自光（外科医）が福山の地で透析医療の充実のため有床診療所を開設した1978年4月3日あります。その後、医療法人辰川会として診療科の充実や、入院ベッドの増床、外来透析専門施設（2か所）開設など、地域医療に寄与すべく取り組んでまいりました。

この間、経済発展や人口構造の変化などに応じて、社会保障制度も変わってきました。2000年には、高齢化社会を支える介護保険制度が始まり、医療と介護の新たな連携と分担が問われる時代となりました。

そのような中、医療機関で急性期の治療が終わった高齢の患者様を支える場として、看取りのできる「終の棲家」の必要性を感じるようになりました。また、たとえ障害や病気があったとしても、社会の一員として尊厳を持って生活すべきであり、それができるという確信もありました。これは、週3回の透析治療を受けながら子育てや仕事を継続し、生き生きと社会生活をされている多くの透析患者様が身をもって示してくださいましたことでした。

さらに2006年、療養病床廃止の法案が可決され、山陽病院の介護療養病床を終の棲家である「特別養護老人ホーム」に転換する道筋がつけられたことも後押しとなりました。その後、医療法人内で慎重に論議を重ね、行政のご指導を得て、2011年に「社会福祉法人さんよう」を設立し、私、辰川和美が理事長を拝命して今日に至っております。

法人設立に際しては、行政のご指導・ご支援とともに医療法人辰川会から、また、当時医療法人辰川会理事長であった辰川自光個人から多大な資金の寄付がありましたことに、改めて感謝の意を表します。

理事長 辰川和美

C O N T E N T S

ご挨拶	1
社会福祉法人さんよう 理事長 辰川和美 辰川会グループ 最高責任者 辰川匡史	
ご祝辞	2 ~ 4
福山市長 枝広直幹様 福山市議会前議長 小川眞和様 広島県議会議員 三好良治様 福山市議会議員 岡崎正淳様 評議員 倉田秀孝様 監事 勝岡正剛様	
10年の歩み	5 ~ 8
事業・施設紹介	9
地域貢献事業	10
ワークライフバランスの取り組み 10年勤続職員	11
座談会	12 ~ 16
テーマ「将来の福祉を考える」 県立広島大学保健福祉学部 講師 手島洋様 福山市長寿社会応援部 部長 神原明子様 社会福祉法人さんよう 理事長 辰川和美	
感謝の気持ち	17 ~ 18
未来へ向けて	19

創立 10 周年を迎えて

「ともに歩む、ともに生きる」の理念のもと、社会福祉法人さんようを設立し、2012年4月に「地域密着型特別養護老人ホームくさど」を開設して10周年を迎えました。

この間、関係者の皆様にはいつも十分なご理解と温かいご支援をいただきしておりますこと、この場を借りて心より御礼申し上げます。

2017年には2つ目の「地域密着型特別養護老人ホームしんがい」を開設し、特養くさどと同様に医療と介護の連携を強みとし、重度介護の方や看取り期にある高齢者様を積極的に受け入れております。また2か所の小規模多機能ホーム（つどおう家・のがみ）においては、利用者のニーズに合わせて「泊り・通い・訪問」の機能を組み合わせ、認知症になっても、介護が必要になってもできる限り長く在宅生活を継続する支援を行っています。

2019年に開設したグループホームおひさまでは、山陽病院の認知症外来や地域包括支援センター野上で認知症の相談をお受けすることの多い関係上、オープンと同時に満床となり、常にご利用希望の問い合わせをいただき現在に至っております。また、2022年4月には定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービスを特別養護老人ホームしんがい併設型で始め、要介護高齢者の新しい在宅生活の在り方を支援する仕組み作りを始めています。

本来業務である高齢者の介護事業を展開すると同時に、認知症カフェや地域食堂などの地域福祉にも取り組んでまいりましたが、これも法人の理念を理解し、心を一つに頑張ってきてくれた職員一同の力があってこそと、感謝しています。

地域に必要とされ、地域の人々に頼りにされる施設・事業所の運営に注力し、そのことがまた職員の喜びとなるような法人であるよう、職責を全うしてまいります。今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



社会福祉法人さんよう 理事長 辰川和美



辰川会グループ 最高責任者 辰川匡史

広島県の東部地域に充実した透析医療を提供したいとの思いで、父である辰川自光が透析中心の外科医院を開業してはや40年以上が経ちました。その間、透析を続けて来られた患者の皆様が高齢となり、自宅で暮らせなくなったり、認知症でご本人やご家族が困ったりするという問題に直面したことが、介護事業に取り組むきっかけとなりました。その後、少しずつ介護事業が軌道に乗り始めると、より多くの方のお力になりたいという思いが強くなり、社会福祉法人さんようを設立しました。気が付けば10年の歳月が経過し、これまでの歩みを振り返りますと感慨の念に堪えません。これも、地域の皆様にご利用いただき、多くのお支えをくださいました賜物と存じます。関係者の皆様に、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

最後になりますが、このたび、特別養護老人ホームくさど、特別養護老人ホームしんがいに続き、3箇所目となる特別養護老人ホームの開設許可をいただき、鋭意準備中でございますことをご報告申し上げます。これからも地域の皆様のお役に立ちながら、皆様とともに発展していきたいと考えておりますので、今後とも何卒よろしくお願ひいたします。



福山市長 枝広直幹 様

社会福祉法人さんようの設立10周年にあたり、心からお慶び申しあげます。貴法人は、2011年7月に「ともに歩む、ともに生きる」を基本理念に設立され、地域密着型の「特別養護老人ホームくさど」や「特別養護老人ホームしんかい」、認知症対応型老人共同生活援助事業の「グループホームおひさま」などを開設されました。また、「地域との共生」をテーマに、認知症の方やその家族、地域住民などが自由に参加できる「オレンジカフェ」や「こども広場」の開放など、住民が交流できる場の提供にも積極的に取り組まれ、地域に根差した信頼される施設として、高い評価を得てこられました。これもひとえに、辰川理事長をはじめ、関係者の皆様方の熱意と御尽力によるものと深く敬意を表するものです。

福山市長 枝広直幹 様
さて、介護保険制度のスタートから20年余が経過し、高齢者の介護を社会で支える仕組みが定着してきました。また、この間、少子高齢化の進行、高齢者のみ世帯の増加、家族や地域社会の変容に伴い、福祉ニーズが多様化・複雑化する中、多様な事業主体の参入など、社会福祉法人を取り巻く環境は大きく変化しました。

こうした中、本市では昨年、「福山市高齢者保健福祉計画2021」を策定し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう地域包括ケアシステムの深化・推進、地域共生社会の実現に向けた取り組みを進めているところです。

貴法人におかれましては、新たに地域密着型の施設整備を計画されており、引き続き、「社会福祉事業の担い手」として中心的役割を果たしていただくとともに、他の事業主体が対応できない福祉ニーズに応え、地域社会に貢献していただけることを期待しています。

終わりに、社会福祉法人さんようの益々の御発展と関係者の皆様方の御健勝を祈念し、お祝いの言葉といたします。

社会福祉法人さんようの設立10周年を心からお慶び申し上げます。

貴法人におかれましては、「特別養護老人ホームくさど」のほか、地域に根差した多様な福祉サービス事業を展開され、高齢者福祉に対する需要に積極的に応えられると同時に、認知症対応についても先進的な取組みを行ってこられました。

この度、設立10周年という大きな節目を迎えられましたのも、皆様のご尽力の賜物であり、長年にわたり本市における高齢者福祉の向上に貢献してこられましたことに、深く敬意と感謝の意を表します。

さて、本市でも総人口が減少する中で、高齢化率は上昇していくことを踏まえ、今後、更なる高齢者福祉の充実が必要となります。

こうした中、本市においては、2021年度からの3年間を計画期間とした「福山市高齢者保健福祉計画2021」を策定し、「高齢者の人権が尊重され、健やかで、自立し、安心して暮らせる共生のまち福山」の実現をめざして、介護保険事業や高齢者に関する保健・福祉等に取り組んでいるところです。

市議会をいたしましても、地域や関係機関等の皆様のご意見もお伺いする中で、一層の高齢者福祉の推進を図ってまいりますので、皆様におかれましても、地域における高齢者福祉の拠点として、さらなるご尽力をくださいますようお願い申し上げます。

結びにあたり、社会福祉法人さんようの益々のご発展を心より祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



福山市議会前議長 小川眞和 様



広島県議会議員 三好良治 様

社会福祉法人さんよう設立10周年、誠におめでとうございます。

辰川和美理事長はじめ職員の皆様のこれまでのご努力に改めて敬意を表します。

10年前を振り返りますと、当時、我が国の介護を取り巻く環境は、高齢者の急激な増加、とりわけ医療ニーズの高い方や重度の要介護者が急増し、多くの課題が顕在化していました。そのような中、介護保険制度の抜本的な見直しが喚起され、その後の地域包括ケアシステムの提唱へと繋がる節目の時期でもありました。

こうした大きな変革期に、社会福祉法人さんようは、時代の要請と地域社会の期待に応えるべく、大きな使命感をもって設立され、独自性溢れる取り組みを積極的に展開して来られました。現在では、福山市のみならず県下においても、大変高い名聲を得ておられます。

特に、同グループの山陽病院と連携した医療の提供、多職種連携、専門的な認知症ケアなど、個々のニーズに高いレベルで応えるサービス提供体制には大変定評があります。

オレンジカフェや認知症サポーター養成講座の実施、地域行事へのボランティア参加といった啓発活動や連携事業にも熱心に取り組まれ、地域との強い絆も築いておられます。

今後は、益々多様化する介護ニーズへの対応はもちろんのこと、影響の長期化が予測される感染症への対策や、慢性的な介護人材の確保など、厳しい状況が続くものと拝察いたしますが、辰川理事長の強いリーダーシップと職員の皆様の団結力のもと、次の10年に向けてさらに大きく飛躍されることを心よりご祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。

社会福祉法人さんようが、法人設立10周年をお迎えになりましたことを、心よりお慶び申し上げます。

2010年の夏に私の地元である福山市沼隈町に、山陽ぬまくま腎クリニックを開院された際に、当時の辰川自光会長と辰川和美副会長にご縁をいただいて以来、今後の高齢者福祉のあり方や地域福祉の充実について、現場の経験に基づくご所見を伺う機会に恵まれ、ご縁に感謝しております。

貴法人の設立に際しては、福山市の第5期介護保険事業計画での施設整備において、特別養護老人ホームくさどを地域密着型として整備を進められる際に、社会福祉法人としての構えを整えて臨むために準備を進められたことが、当時の経緯だったと記憶しております。

当時は、福山市内の既設の特別養護老人ホームの多くが周辺部に整備されており、市内中心部での整備の遅れが課題となっていました。中心部での介護ニーズに応えていくための福山市の施策に呼応していただき、2012年の3月に特別養護老人ホームくさどが無事落成式を迎えたことをつい最近の事のように思い返しています。

その後、特別養護老人ホームしんがいの誕生や、グループホーム、小規模多機能ホーム、ショートステイ等、11事業所で構成される有数の法人に成長されましたことは、辰川理事長をはじめとして、職員の皆様が利用者や地域の多様なニーズに真摯に向き合ってこられた結果を感じております。

昨今、医療と介護の連携が益々求められていますが、社会福祉法人さんようにおかれでは、山陽病院をはじめとする辰川会グループが長年にわたり培ってこられた地域医療の信頼と基盤を含め、福山市における地域包括ケアシステムの先駆者として、時代を先取りした新たな目標に向かって邁進されますことを期待しております。

10周年を機会に、貴法人が利用者や地域住民から信頼され、愛される法人として益々ご発展されますことを祈念いたします。



福山市議会議員 岡崎正淳 様



評議員 倉田秀孝 様

社会福祉法人さんよう設立10周年誠におめでとうございます。

さて、1960年代後半から少子高齢化社会という言葉が使われ始め、世界に類のない速さで高齢社会に入り、今では超高齢社会が目前となっています。

このような中、社会福祉法人さんようでは、高齢者が安心して生活できる施設として、明るく家庭的な雰囲気のある、特別養護老人ホームやデイサービス、ショートステイ等様々な高齢者施策を取り組んでおられます。

特に辰川理事長は、認知症ケアに力を入れられ、卓越した知識をもとに、認知症に特化した施設運営を行うとともに、学習会を主宰して啓発活動にも取り組まれています。また、地域との連携を重視し、施設の一部を地域に開放するなど、地域とともに歩んでいく経営方針で運営されています。私たち新涯学区の住民も、学区内にこのような施設があることを心強く感じています。

財政面や人材確保等の課題もあると思われますが、今後とも地域と一体となり、ますますご発展されますようご祈念申し上げ、お祝いの言葉をいたします。

この度は法人設立10周年を迎えられ、誠におめでとうございます。

10年という期間に、2つの特別養護老人ホームをはじめグループホームや関連の介護施設を開設され、地域の拠点となる高齢者の福祉施設としての礎を築かれましたことを心からお慶び申し上げます。そして、辰川理事長の「高齢者の介護事業を通して社会のお役に立ちたい」という志のもと、職員の皆様が心を一つにして真摯に事業に取り組まれていることに対し衷心より敬意を表します。

辰川会グループ会長の辰川自光先生と同じロータリークラブに所属しているご縁で、法人の設立にあたり、介護事業に対する経験や知識が全くない私ではありますが、監事を引き受けさせていただきました。爾来10年、社会福祉法人として顕著な実績をあげられている状況に接することで、私自身、高齢者福祉の意義や重要性、健全な事業運営の在り方等多くのことを学んでおります。中でも職員の皆様が、高い倫理意識を持って利用者のことを考え、利用者に寄り添った丁寧な介護サービスを徹底している姿にはいつも感銘を受けております。

さて、個人的なことですが、私の両親共、こちらの施設で大変お世話になってきました。母は現在「特別養護老人ホームくさど」に入所しておりますが、これまでにもショートステイやケアホーム等での施設で長年お世話いただいたことで、今日までの日々を健やかにそして心穏やかに過ごすことができたものと思っております。いかなる状況の中であっても、いつも適切な介護をしていただいたことに対し心より感謝いたしている次第です。

団塊の世代すべてが後期高齢者を迎える2025年が間近に迫っております。今後ますます高齢者福祉施設の需要は高まりますが、10年を1つの通過点として更にその先を見据え、これまでのノウハウや経験をもとに、この地域でより質の高い介護サービスを提供していかれることを祈念しております。



監事 勝岡正剛 様

10年の歩み

Our history

社会福祉法人さんよう設立時の理事会メンバー
辰川和美、枝廣稔、松本恵美子、柿原弘幸、石原郁朗
石井稔、勝岡正剛、小野隆平（順不同）

2011.7 社会福祉法人さんよう設立



2011.8 特別養護老人ホームくさど地鎮祭

2011

2012.4

地域密着型特別養護老人ホームくさど開設
ショートステイくさど開設
デイサービスセンターくさど開設
ケアプランセンターくさど開設



お地蔵さまに見守られて



抱負を述べる初代施設長松本恵美子とスタッフ



開所式の様子

2012.6

シルバーハウジング生活見守り事業開始
(福山市受託事業)



コンサート
フラダンス
南京玉すだれ
(ボランティア)



2012.8

第1回くさど夏祭り開催 (特養くさど・以降継続)



夏祭り



第1回特養くさど家族会



ぼっけえ元気俱楽部 (デイサ
(地域活動))

2012

メディア情報



2012.6 FMふくやま ラジオ出演



2014.7 ビジネス情報取材



2015.4 シャボット・あかね氏
在オランダジャーナリスト、通訳
(2019年外務大臣表彰)



2013



誠之中学による太鼓演奏（ボランティア）



光学区女性会によるピアノと歌の会（月1回）
（ボランティア）



2013.12 備後地区郵便局長会より
車いすをいただきました



オアシス会発足（認知症を学ぶ会・以降継続）



2015.10 中国新聞「RUN伴」掲載

2014.3

イメージキャラクター
「ともにやん」誕生



2014.11

第1回オレンジカフェくさど
(認知症カフェ) 開催（以降継続）



2014.1 車いす清掃（ボランティア）



ふくやまマラソンに参加

2015.2

「広島県仕事と家庭の両立支援企業」
登録（辰川会グループ）



2015.11

ミュージアム花主催「こども絵画作品展」
に協賛



「社会福祉法人さんよう賞」の授与



認知症を学ぶ会（山陽病院岩本医師の特別講義）



認知症を学ぶ会（グレープワークの様子）

2013

2014

2015



2017.11 全国ボランティアフォーラム出席
理事長がパネリストとして出席

2016.6

小規模多機能ホームのがみ開設
(山陽介護センター内)



2016.9

ケアプランセンターくさど移転
(山陽介護センター内)



認知症サポーター養成講座定期開催

2016

2017.2

仕事と生活の調和
「ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業所」
認定 (辰川会グループ)



2017.5

地域密着型特別養護老人ホームしんがい開設
ショートステイしんがい開設
ふあみりえ山陽しんがい開設



特別養護老人ホームしんがい内覧会

2017.7

第1回地域食堂開催
(特養しんがい・以降継続)



2017.8

ピアパーティ (職員と家族)



2017

2018.2

さんよう介護相談窓口開設
(大黒町ケアローソン内)



2018.5

家族会開催 (特養しんがい)



第50回ばら花壇コンクールで努力賞受賞
(特養しんがい)

2018.6

「イクボス同盟ひろしま」メンバー登録



認知症予防について勉強会と懇親会 (地域活動)

2018



2018 広島ホームテレビ「ビジネス最前線」で
社会福祉法人さんよう紹介



地域食堂



2018.8 ぐらんふあーま
「楽チン体操」掲載



2018.10 ぐらんふあーま「認知症と私」連載開始



2021.3 山陽新聞

2019.3

床走行式電動介護リフト導入
(特養くさど・特養しんがい)



介護体験指導（山陽病院の新入職員）

2019.7

外国人技能実習生の採用面接（フィリピンに於いて）



環境についての紙芝居（ボランティア）

2019



新涯小学校児童との交流

2020.2

オンライン面会開始（新型コロナ対策として）



2020.3

「シルエット見守りセンサ」導入
(特養しんがい)



2020.4

グループホームおひさま開設



2020.9

「マッスルスーツ Every」導入
(特養くさど)



パロ



コロナ禍で介護用ロボットやペッパーが活躍

2020



2021.3 新涯小学校児童と飛沫バネルの作成



2021.2 ビジネス情報掲載「フレイルチェック会」掲載

2021.2

移乗サポートロボット「Hug」導入
(特養くさど・特養しんがい)



辰川会グループ研究発表会での報告

2021.5

第53回ばら花壇コンクール
企業花壇部で特別賞受賞（特養しんがい）



2021.9

敬老の日のお祝い



男性で初めての100歳のお祝い

2021.11

出張フレイル予防塾（福山市受託事業）



出張フレイル予防塾の様子

2021



2021.5 ひろしま満点ママ「フレイルチェック会」取材
フレイルセンターとしての活躍中の理事長

事業・施設紹介

■ 特別養護老人ホーム

特別養護老人ホームくさど

ショートステイくさど

所在地：福山市草戸町五丁目8番24号

電話番号：084-973-9911

居室数：特養29床、ショートステイ29床



特別養護老人ホームしんがい

ショートステイしんがい

所在地：福山市新淮町三丁目19番27号

電話番号：084-961-3955

居室数：特養29床、ショートステイ29床



■ グループホーム

グループホームおひさま

所在地：福山市地吹町13番28号

電話番号：084-959-3441

居室数：18室



■ デイサービス

デイサービスセンターくさど

所在地：福山市草戸町五丁目8番24号

電話番号：084-925-8822 定員 40名



■ 認知症対応型デイサービス

ふあみりえ山陽くさど

所在地：福山市草戸町四丁目22番1号

電話番号：084-926-4433 定員 24名



■ 小規模多機能ホーム

小規模多機能ホームのがみ

所在地：福山市野上町一丁目2番17号

電話番号：084-991-0034 登録定員 29名



小規模多機能ホーム つどおう家

所在地：福山市草戸町四丁目22番1号

電話番号：084-921-1775 登録定員 29名



■ 居宅介護支援事業所

ケアプランセンターくさど

所在地：福山市野上町一丁目2番17号

電話番号：084-973-2855



■ 福山市受託事業

シルバーハウジング（高齢者世話付住宅）

所在地：福山市西深津町二丁目2番1号・2号 福山市深津住宅1号棟・2号棟

電話番号：084-924-0050（生活支援員詰所）

地域貢献事業

◆認知症カフェ（オレンジカフェ）

認知症の人が地域の人や友人と交流を楽しむ場所です。ご家族からも情報交換や気分転換ができると好評です。医療・介護の専門職が参加し、優しく、さりげなく支援の手を差し伸べます。

「オレンジカフェくさど」をはじめ、「オレンジカフェしんがい」も開催しています。



◆多職種で認知症を学ぶ会

毎月テーマを決め、実際のケアの場面で役立つ知識や技術を共有しています。多くの医療機関や介護事業所から参加があり、貴重な情報交換の場となっています。



◆認知症サポーター養成講座

認知症についての広報活動に積極的に取り組んでいます。法人内のキャラバン・メイト（指導者としての講習を受けた職員）が月1回、認知症サポーター養成講座を定期的に開催しています。



◆地域食堂（なかよしキッチン）

特養しんがいで開く地域食堂です。大人同伴であれば小学生以下の子供は無料で、大人も100円で夕食が食べられます。ご近所の方から採れたての野菜やお魚などの差し入れをいただき豪華なメニューが並ぶこともあります。みんなで食事をすることを楽しみに地域の方が集ってこられます。



◆デイサービスの開放（ぼっけえ元気倶楽部）

デイサービスセンターくさどは地域交流をしながら楽しく介護予防ができるよう、毎週日曜日に施設を開放し、運動器具を無料で自由に使えるようにしています。地域の方にとっていつも身近で、気軽に立ち寄りいただける場所を目指しています。



◆健康講座

地域の方々のご要望にお応えし、特養くさどや特養しんがいの地域交流スペースで様々な健康講座を開催しています。高齢者を取り巻く介護の現状や、認知症についての講座が好評です。



◆出張フレイル予防塾

福山市から委託を受け、早期の介護予防を目的に医療・介護の専門職が地域の集いの場に伺い、健康状態の把握や、食事、栄養、口腔（飲み込み）、運動、社会参加の重要性をわかりやすくお伝えしています。地域の方々が自分の心や身体に目を向け、健康寿命を延ばせるよう取り組んでいます。



◆介護無料相談（ケアローソン大黒座）※2022年3月31日で運営終了

お買い物ついでに誰でも気軽に介護相談ができる場所として、多くの方に訪れていただきました。サロンスペースでは定期的にイベントを行い、様々な情報を発信しました。



◆RUN伴（ランとも）

「認知症になっても安心して暮らしていける地域をつくりたい」との願いを込め、認知症の人やご家族、支援者、一般の人がひとつの襷（タスキ）をつなぎゴールを目指すイベントに辰川会グループも初回から支援しています。



ワークライフバランスに取り組み、 働きやすい職場作りを目指しています



◆子育て・介護のための正職員短時間勤務制度

小学校入学前の子供がいる職員及び介護が必要な家族がいる職員は、最短 6 時間の勤務（通常 8 時間）を選択することができます。
短時間勤務取得実績 2021 年度 8 人（社会福祉法人さんよう）



◆事業所内保育所（福山市認可）「おひさま保育園」

福山市認可の事業所内保育園（対象 0～2 歳児）
保育料 一律 15,000 円



◆保育支援制度（正職員）

◇保育手当：保育所、幼稚園等へ入所した場合に支給（対象 3 歳児以上）
1 人につき 上限 30,000 円/月 2 人以上 上限 55,000 円/月
◇学童保育手当：放課後児童クラブ等を利用した場合に支給（対象 小学 1～6 年生）
1 人につき 上限 3,000 円/月
◇病児保育手当：0 歳～就学前の子供が病気になり、病児保育施設を利用して勤務した場合に支給
かかった費用全額



◆育児休業・介護休業取得者

育児休業取得実績 2021 年度 3 人（社会福祉法人さんよう）
介護休業取得実績 2021 年度 0 人（10 年間で 3 人）（社会福祉法人さんよう）



◆長時間労働の削減・有給取得率 UP の促進 など

月平均所定外労働時間 2021 年度 0.3 時間（社会福祉法人さんよう）
有給休暇取得率 2021 年度 64.9%（社会福祉法人さんよう）



◆認定



「広島県仕事と家庭の両立支援企業」登録



「ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業所」認定



イクボス同盟
ひろしま

「イクボス同盟ひろしま」メンバー登録

10 年以上の勤続職員

繁浪 恵美	岩尾 行浩	小谷 和枝	三島 洋平	田丸 ナルミ
笠原 佐和子	菊田 朋子	志田原 邦博	大西 優香	宮本 恵子
掛谷 緑	高橋 英美	小林 季実子	河村 美香	中川 貴絵
小林 小永子	中村 容子	川原 恵	石井 太美	
三次 あをい	本瀧 まゆみ	大成 美保子	田丸 哲也	
中村 康子	石黒 由佳	内田 昇	佐々木 康子	

2022 年 3 月末 現在

将来の福祉を考える

今後日本は少子高齢化・人口減少がさらに進み、2025年には国民の3人に1人が65歳以上となると言われています。その後も人口減少は進みますが、高齢者の人口は2040年にピークを迎える、高齢者のみの世帯や認知症高齢者、医療や介護の依存度が高まる後期高齢者が増加して、福祉ニーズはますます複雑化することが予測されます。

こういった予測に対し行政では、年齢を重ねても住み慣れた地域で安心して暮らせるための取り組みが進められています。そこでこのたび、社会福祉法人さんようの設立10周年記念として、福祉分野の施策に大きくかかわっておられます県立広島大学保健福祉学部の手島洋先生と福山市長寿社会応援部の神原朋子部長にご参集を賜り、将来の福祉について語っていただきました。

私たち一人ひとりが当事者意識を持ち、自分たちの未来と一緒に考えていくきっかけとなりました幸甚でございます。

<コーディネーター>

手島 洋 氏

県立広島大学 保健福祉学部 保健福祉学科 講師

社会学博士 専門分野は、地域福祉、権利擁護

福山市社会福祉協議会 法人後見審査検討委員会委員長、社会福祉法人広島県社会福祉協議会評議員、

三原市高齢者虐待防止ネットワーク協議会委員長、福山市地域福祉計画懇話会座長など数々の要職を歴任

住民主体の地域福祉活動、成年後見制度の利用促進、家族介護者の支援、権利擁護システムの構築、

住民活動を支援するコミュニティワークなどを研究テーマとしている

<パネリスト>

神原 明子 氏

福山市長寿社会応援部長

1994年入庁

秘書広報課、市民生活課、福祉総務課、すこやかセンターなどで勤務

2017年から企画政策課長、2019年から経済総務課長、

2021年から現職

政策通であり、市の高齢者施策全般において手腕を発揮している

辰川 和美 理事長

辰川会グループ 社会福祉法人さんよう理事長、医療法人辰川会常務理事

認知症介護指導者

認定心理士（広島大学教育学部心理学科卒）

保健医療学修士（言語聴覚分野）

社会福祉経営学士（日本福祉大学）

介護事業や医療機関の運営の傍ら、認知症の人の生活のしづらさや、家

族の不安・困惑に対する相談支援や高齢者のフレイル予防などをライフ

ワークとして取り組んでいる



FUTURE >

将来の福

手島先生 辰川理事長、社会福祉法人さんよう設立 10 周年、誠におめでとうございます。

辰川理事長 ありがとうございます。

手島先生 早速ですが、まずこの 10 年の歩みを振り返ってくださいますか？

辰川理事長 辰川会グループは 1978 年、医療事業から始まりました。以来、多くの患者様とともに歩んできましたが、2006 年、国の施策で「2012 年までの療養病床廃止」が打ち出されたことをきっかけに、将来、どのような場所で高齢者をお見送りしたら良いのか検討を始めました。当時は人生の最期を病院で迎えるのが一般的でしたが、話し合ううちに、患者様のお気持ちを思うと、生活の場でお見送りすることが何より大切だと考え、終の棲家である特別養護老人ホームの開設に至りました。現在は定員 29 人の特養で、毎年 15 人前後の看取りをしています。

看取りの他にこの 10 年間で力を入れたのは認知症ケアです。2008 年に福山市でいち早く認知症対応型デイサービスを開設したのを皮切りに、小規模多機能居宅介護などでも多くの方を支援してきました。介護事業所だけでなく地域にも認知症ケアを広げていこうと、認知症カフェや勉強会を開き、フォーマル、インフォーマルの両面で対策を進めてきました。

手島先生 お話の中に出てきた看取りについて教えてください。看取りを病院ではなく生活の場で行うことは入所者から見ると理想的ですが、運営側からすると大変なこともあったのではないかでしょうか？

辰川理事長 そこは医療から生まれた介護事業という強みを生かし、医療と介護の連携を図って乗り越えてきました。例えば、山陽病院からは第一線の医師を派遣してもらい、看護師も急性期の医療や外来の経験者を充てることができました。

特養を開設して初めての看取りの際、職員から、「看取りになると私たち介護職員はもう何もすることができない」という発言がありました。これを聞いて私は、「いいえ、ここからが私たち介護職の出番であり、力の見せどころです。ご本人やご家族と長い時間をかけて信頼関係を築いてきた私たちだからこそできることが必ずあります。お見送りの時まで心を込めてケアを行いましょう」と伝えたことを思い出します。病院の手を離れ、特養へ入ることに不安を覚えるご家族様もおられましたが、病院と綿密に連携し、体調不良の際に外来受診や入院に速やかに繋げ、安心していただきました。

あれから 10 年経ち、今では、「病院ではなく生活施設で最期を迎える」という考え方方が普及してきたと思います。

手島先生 看取りのほかにもう 1 つ、認知症ケアを挙げられました。認知症の入所者・利用者へのケアと、地域で生活されている認知症の人へのサポートについてお聞かせください。

辰川理事長 認知症であることを公言したくないという人が大多数という現実に直面したのをきっかけに、2009 年に私自身がキャラバンメイトとして先頭に立ち、認知症の広報活動を始めました。以降、辰川会グループでは全職員が講習を受けてオレンジリングを取得し、地域で定期的に出前講座を行ったり、認知症カフェで山陽病院の医療職がボランティアスタッフを務めたりするなど、認知症への正しい理解と対応方法の啓発に努めてきました。これに満足せず、介護技術の



< WELFARE

止を考える

さらなるスキルアップと地域における認知症の人の居場所づくりは、今後も力を入れて取り組む必要があります。

手島先生 ありがとうございます。今後の展開に期待しています。さて、続いては神原部長に伺います。神原部長、まずは福山市の高齢化の現状について教えてください。

神原部長 2020 年の国勢調査で福山市の総人口は、460,930 人、そのうち 65 歳以上の人には 132,167 人で、高齢化率は 29.2% です。全国平均が約 28% なので、全国的に見ても高齢化が進んでいる地域と言えます。65 歳以上の人口は 5 年前の前回調査と比べて約 9,000 人増え、割合では 7.1% 増加しています。

これは全国的な傾向ですが、福山市も例に漏れず総人口が減っています。つまり、高齢者は増えているのに、高齢者を支える世代が減少しているのです。ちなみに高齢者の 1 人暮らし世帯は 33.7% で 5 年前の 1.5 倍です。男性の 8 人に 1 人、女性の 5 人に 1 人が 1 人暮らしで、これも深刻な問題です。家族や地域の繋がりも薄まり、高齢者や認知症の人の増加と相まって、福祉施策へのニーズは多様化しています。

手島先生 こうして具体的な数字を見ると、いかに高齢化が進んでいるのかがわかりますね。では、実際に福山市はどの

ような課題に直面しているのでしょうか？

神原部長 福山市が 2021 年に行ったアンケートで、「人生の最期を自宅で迎えたい」と答えた人は全体の半分でした。このことから、自宅にほぼ近い生活環境が整っている介護施設の必要性は益々高まっていると思います。施設系サービスをはじめ、在宅の医療・介護サービスもより強く連携し、レベルアップしていくかなければなりません。もちろん行政の役割も大きいです。例えば認知症は、診察を受けること自体、ハードルが高いものです。もし診察を受けたとしても、ご本人の拒否もあってすぐにサービス利用に結びつかないという厳しい現実もあります。行政としていかに手を差しのべるか、あらゆる検討を重ねています。

サポート機関として地域包括支援センターがありますが、まだまだ認知度が低く、福山市のアンケート調査結果でも日常生活の困りごとが起きた場合に、「家族・友人・知人以外に相談するところがない」と答えた人が 4 割もいました。地域包括支援センターの役割をもっと PR する必要があります。

このほか、高齢者の移動手段確保も課題です。身体機能や認知機能が低下し、交通事故を起こす恐れのある高齢者には、早めに運転免許証の返納を勧めたいのですが、同時に、公共交通機関を整備し、返納しても不便のない社会づくりを進めなければなりません。



手島先生 高齢化で手助けのニーズが増えているのは確かですね。しかし、人口減少で若い世代が少なくなったこともあり、自分たちだけでなんとかしようとした結果、介護疲れ、介護離職という問題も起きています。社会から孤立し介護心中といった最悪の事態も実際に起きています。このような現状を見ると、社会福祉法人の役割は大きいと感じます。行政として社会福祉法人の活動に期待することは何でしょうか？

神原部長 社会福祉法人は住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくり、いわゆる地域包括ケアシステムの中心といつても良いくらいの存在です。だからこそ、一朝一夕には作られない、地域での繋がりや信頼関係を、時間をかけて構築し、市内、県内、さらには全国でモデルとなるような活動を期待します。福山市も社会福祉法人の地域貢献活動に協力し、取り組みのPR活動に努め、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりを進めたいです。

手島先生 期待は大きいですね。辰川理事長は地域のニーズに応えるために、社会福祉法人にはどのような使命や意義があると考えていますか？

辰川理事長 社会福祉法人の認可をいただいたときは使命の大きさに身が引き締まる思いでした。それからというもの、なんとか期待に応えたいという想いで懸命に走ってきました。デイサービスのお休みの日、施設を地域の人に開放する「ばっけえ元気クラブ」や、認知症カフェ、地域食堂といった取り組みを進めてきましたが、ふと振り返った時に、「自分の想いだけが先行していないだろうか？もっと地域ニーズを拾い上げるべきではないか？」という反省がありました。自己満足とならないよう、地域の皆様が望んでいることを着実に実行していく組織でありたいと足元を見つめ直しました。

このたび新たに特養を整備することになりましたので、地域の皆様の意見を伺いながら、本来の業務はもちろん、地域

貢献活動をさらに積極的に展開していきたいです。

高齢化問題については、若い世代にいかに関心を持つてもらうかがポイントだと思います。若い人は仕事や子育てで手一杯になりがちですが、例えば「有償ボランティア制度」を活用するのも1つの方法です。多額ではなくとも、介護のボランティアで謝礼を受け取ると、興味を持つきっかけにはなるでしょう。長野県のように制度としてしっかり機能している地域から学び、福山市でも活用が進んでほしいです。

手島先生 地域の人から具体的な困りごとを耳にされたことはありますか？

辰川理事長 辰川会グループでは地域包括支援センターを市から受託し運営しています。そこで地域の人との話し合いの中で、日常生活の困りごととして、ゴミ出しと買い物を挙げられる人が多くいらっしゃいます。

これらの困りごとを解決するにはそれこそ有償ボランティアといった地域の力を借りることです。若い人や元気な高齢者の力を借りて課題解決に繋げてはどうでしょうか。高齢者にとっても、無理のない範囲での社会貢献活動はフレイル予防に役立ちます。

先ほど神原部長から「社会福祉法人は地域包括ケアシステムの中心的存在」との言葉をいただきましたが、私たちも地域の中で積極的に課題解決に貢献したいという想いでいます。

手島先生 課題解決に向けて具体的な方法を考えておられ、頼もしく感じます。さて、お話が少し戻りますが、認知症の人が増えていることも社会的な課題の1つですよね。社会福祉法人さんようでは今後の展望として、認知症ケアの充実をどのように考えておられますか？

辰川理事長 認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよりよい環境で、自分らしく暮らし続けること



ができる社会が理想です。法人としては、新たに整備する特養がこうした取り組みの拠点となるように、そこに結集する専門職の力を活用したり有償ボランティアの仕組みを導入するなど、地域の人とともに取り組んでいきたいです。まずは認知症の人を支援する仲間を増やし、協力関係を築いていくことを大事にしたいです。

手島先生 協力できる関係づくりという意味では、行政の役割も重要ですよね。福山市としては認知症の問題についてどうお考えでしょうか？

神原部長 認知症対策は力を入れて取り組んでいる施策の1つです。今年4月にスタートしたものに、認知症の人向けの保険があります。認知症の人のひとり歩きが原因で公共交通に損害を与えたり、住んでいる部屋の水漏れで下の階が水浸しになったりした場合に多額の賠償金が必要となることが考えられますが、こういったリスクに備え、安心して暮らせるように保険を掛ける仕組みを構築しました。

認知症の人にやさしい配慮が普通に行えて、認知症の人が尊厳を保って日常生活を送ることのできる地域づくりを、地域住民の皆様や社会福祉法人と連携して取り組んでいきたいです。

手島先生 個人の問題を社会全体で支えていくことが、安心して暮らすことのできる条件の1つですよね。行政が旗振り役を担い、地域貢献に取り組む社会福祉法人を後押しできると取り組みやすいと思います。

最後になりますが、神原部長、設立から10年が経ち、これまでにも多くの取り組みを行ってきた社会福祉法人さんように、行政の立場から期待することを教えてください。また、それを受けた辰川理事長には、ぜひ決意表明をお願いします。

神原部長 これまで培ってこられた地域の人との信頼関係や

実績は大変貴重なものです。この経験をもとに、地域包括ケアシステムの構築に向けて、ぜひ行政とともに取り組んでいただきたいです。特に認知症施策の推進は、これまで積み上げてこられたノウハウをもとに先進的な取り組みを期待したいです。

手島先生 神原部長のご期待を受けて、辰川理事長、いかがでしょうか？

辰川理事長 ありがとうございます。私たちの強みは、充実した医療がバックアップする介護サービスの提供です。この強みを大事に、医療と介護の連携をさらに強固にして介護がバックにある医療の強みも広げていきたいです。

認知症対策についても、これまでの歩みを踏まえたうえでさらに充実させていきます。

今後、人口減少が進み、働き手が少なくなる中、貴重な労働力である若い世代にとって魅力的な環境を目指しています。具体的には、ICTや介護ロボットを活用し、活力と活気のある職場づくりを進めています。

外国人人材の受け入れも行っています。単なる労働者としてではなく、レベルの高い日本式介護を普及させるための国際交流の一環と考えています。支えてくれている多くの職員とともに、次の10年に向け、さらに発展していくことを誓います。

手島先生 神原部長、辰川理事長から将来への力強い言葉が聞けて嬉しいです。地域の人と行政、そして社会福祉法人が手を取り合って助け合い、希望のある未来にしたいものです。

社会福祉法人さんようはこの10年間に様々なチャレンジを繰り返してこられました。今後も時代の変化に対応しながらチャレンジを続け、益々発展していかれることを願っています。





感謝の気持ちを たくさんのお笑顔に添えて





未来へ向けて

法人設立10年の節目に、身に余るご祝辞とたくさんの励ましをいただき、感謝ひとしおでございます。ただただ、理事長職に恥じないようにとの一念で過ごしてまいりましたが、こうして振り返ってみると、市長様はじめ多くの関係者、職員の皆様に支えていただいたことを改めて実感し、感謝を申し上げる次第でございます。

今日の思いを忘れず、「社会福祉法人さんよう」は、これからも社会のお役に立てるよう、介護事業にも地域貢献活動にも邁進してまいります。

現在、法人3つ目となる「地域密着型・特別養護老人ホーム アボーデひかり」の整備が決定しており、着々とその準備を進めています。ここでは、生産性の向上を目指した考え方（1ユニット15人）を取り入れ、29床を2ユニットで運営します。また、これまでに導入した介護ロボットに加えて音声による介護記録入力など、ICT化も積極的に進め、魅力のある介護現場を創造します。多発する複合的かつ長期的災害に対応できるよう地域の避難拠点としての機能も備える予定でございます。2023年度には、既存のグループホームおひさまの1ユニット追加整備も許可いただいておりますので、人材確保や教育の徹底など一層気を引き締めて業務に励んでまいります。

深刻な少子高齢化の影響で、介護人材の不足は大きな課題となっていますが、これまでのベトナム国・フィリピン国に加え、ミャンマー国やキルギス共和国の人々も、介護人材として迎える予定です。「日本式介護」の素晴らしさを世界に発信する機会ととらえ、私たち自身も誇りをもって、ともに学び、ともに実践することを楽しみにしています。

私たちの人生が「祝福の笑顔とよろこびの言葉」に満ちて始まるように、人生の終わりを精一杯の「感謝の笑顔とねぎらいの言葉」でお見送りしたいと考えます。そのために、お一人お一人に寄り添う介護をいたします。

大切な人生最終章の日々を私たちに任せてくださることに、深い感謝とともに畏敬の念をもって、今後もしっかりとお支えしてまいります。



理事長 辰川和美

行動指針（クレド）

CRED
1

私たちちは、誇りを持って働く辰川会を作ります

- * チャレンジ精神を持ち、自ら考え行動します。
- * 出来ない理由を考える前に、出来る方法を考えます
- * 分からないことは、すぐに調べてお答えします
- * 常に向上心を持って勉強を続け、レベルアップし、専門性を高めます

CRED
2

私たちちは、「ともに歩む」の思いで、優しく寄り添い、心のこもったサービスを提供します

- * 明るい笑顔で挨拶します
- * 思いを察して、対応します
- * 身だしなみは清潔で控えめにします
- * 分かりやすい言葉でお伝えします

CRED
3

私たちちは、チームワークを大切にします

- * 互いに良い点を認め、悪い点は注意し合える職場を作ります
- * 上司・部下・先輩・後輩・職種・部署を越えて、助け合います
- * 自分の間違いを素直に認め、改善します

CRED
4

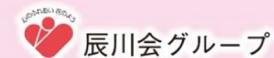
私たちちは、働き易く安全な環境を作ります

- * ものを大切にします
- * すすんで清掃をします
- * 整理整頓を継続します
- * 問題意識を持ち、業務改善を行います

CRED
5

私たちちは、地域に根差した辰川会を作ります

- * 地域の人にすすんで挨拶します
- * 医療・介護を通して、地域のお役に立てるごとを歓びとします



クレド

クレドは、辰川会全員の信条です
私たちは、クレドに基づき行動します

連携施設

山陽病院

所在地：福山市野上町二丁目8番2号
電話番号：084-923-1133



山陽腎クリニック

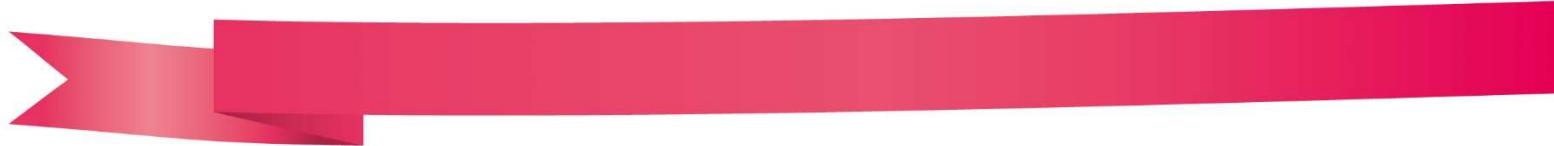
所在地：福山市野上町一丁目7番8号
電話番号：084-928-5500



山陽ぬまくま腎クリニック

所在地：福山市沼隈町草深2031
電話番号：084-980-0034





社会福祉法人さんよう 10周年記念誌

発行 2022年7月

編集者 藤井孝紀・廣松八重美・瀬尾昌展

辰川和美・辰川理美子

発行者 社会福祉法人さんよう

福山市草戸町五丁目8番24号

URL <https://www.sanyo.or.jp/>